

科目名	日本語		英文表記	Japanese		作成・修正日	
科目コード	3014						
教員名:吉川 友子 技術職員名:						作成	
対象学科/専攻コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態
全学科			3年	選	履修	2単位	講義
科目目標	日本語の基礎を固め、学んだ文法項目や表現を統合して論理的に思考しながら理解・発信する力を高める。						
総合評価	前期・後期評価: 定期試験(中間・期末)の平均の定期試験(80%)+課題(20%) 学年末評価は前期評価と後期評価の平均で行い、60%以上を合格とする。						
科目目標達成度とJABEE目標との対応	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)			達成度目標の評価方法			目標割合
	①	日本語による論文・記事の構成を理解し、論理的に考察することができる。		⇒	論文・記事を正確に読解し、論理的に考察することができるか、定期試験および演習等の課題で評価する。		50%
	②	日本語能力試験N1相当の語彙・表現の知識を増やす		⇒	高度な語彙・表現が身についているか、定期試験および演習等の課題で評価する。		50%
	③			⇒			
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4			
	○	◎		○			
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック
評価項目		80	0	0	20	100	
基礎的理解		60				60	
応用力(実践・専門・融合)		20				20	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)					20	20	
主体的・継続的学修意欲						0	
授業概要、方針、履修上の注意	日本語を媒体とする多様な学習活動に必要なコミュニケーション能力を、様々な資料の速読や読解とそれに関するディスカッションによって育成し、日本語能力試験N1相当の力をつける。 授業では毎回、短い速読練習と日本語能力試験N1の語彙を習得する。また、演習課題を課し、その提出状況も評価する。						
教科書・教材	『日本語能力試験対策・日本語総まとめN1(文法/語彙/漢字)』佐々木仁子他著(アスク出版) 『速読の日本語』(The Japan Times) 『大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編著(アルク)						

授 業 計 画

週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェッ ク
1	コースインフォメーション・自己紹介	2	履修内容概観・日本語による自己紹介	演習課題	
2	異文化適応	2		演習課題	
3	異文化適応	2		演習課題	
4	異文化適応	2		演習課題	
5	いじめ	2		演習課題	
6	いじめ	2		演習課題	
7	いじめ／応用練習	2	以上の総復習	総復習	
8	前期中間試験(行事予定で週変更可)	2	以上の習熟度を評価	総復習	
9	応用練習・衝動買いを誘導する	2		演習課題	
10	衝動買いを誘導する	2		演習課題	
11	衝動買いを誘導する	2		演習課題	
12	ビデオカメラの人間工学	2		演習課題	
13	ビデオカメラの人間工学	2		演習課題	
14	ビデオカメラの人間工学	2		演習課題	
15	応用練習	2	以上の総復習	総復習	
期末	期末試験	[2]	以上の習熟度を評価		
16	応用練習・多様化の中のテレビ	2		演習課題	
17	多様化の中のテレビ	2		演習課題	
18	多様化の中のテレビ	2		演習課題	
19	フリーター	2		演習課題	
20	フリーター	2		演習課題	
21	フリーター	2		演習課題	
22	応用練習	2	以上の総復習	総復習	
23	後期中間試験(行事予定で週変更可)	2	以上の習熟度を評価	総復習	
24	安全でおいしい水を飲むために	2		演習課題	
25	安全でおいしい水を飲むために	2		演習課題	
26	「まじめ」という言葉	2		演習課題	
27	「まじめ」という言葉	2		演習課題	
28	がん告知	2		演習課題	
29	がん告知	2		演習課題	
30	応用練習	2	以上の総復習	総復習	
期末	期末試験	[2]	以上の習熟度を評価		
学習時間合計		60	実時間	45	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)	
①	語彙・表現文法・読解などの演習課題を解く。			各1時間×24回	
②	既習項目の復習をし、与えられたテーマに沿った応用練習を行う。			各1時間×6回	
③					
備考欄					